

# 努力賞

【工法の種類】 荒壁パネル工法で伝統構法住宅を補強

【応募者名】 株式会社クサカ



夏の暮らしを旨とする 築 120 年の伝統構法家屋を シェルターにする



② 仏間から見た庭の眺め



④ 庭の風情はそのまま、少し暗くなる。



明治 22 年に建築された典型的な伝統構法の家です。昭和 60 年に伝統構法で改修工事を行ない、大事に住み続けています。手前は別棟です。

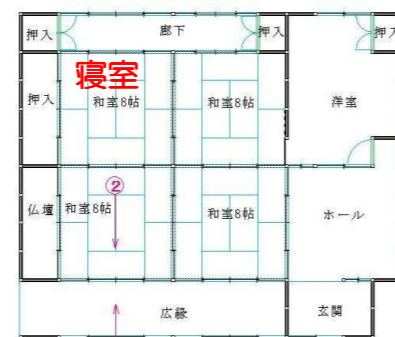
設計ポイントは、壁を新設し足固め材を設け耐震性能向上を図りながらも、これまでと変わらない暮らし方を旨しました。9 本全ての柱に壁を持たせ、建具を全開すれば、同じ風が吹きぬける。タンスが置かれ通らなかった建具の箇所を全て壁とした。寝室廻りに 6 枚の壁を構築し、シェルターとして、住まう人を守る。一般診断法(方法 2)で 0.44 と低い値ではあるが、命を守る改修工事はできたものと思っています。安城市の簡易型耐震改修工事の補助金が活用でき、負担が少し軽減できました。



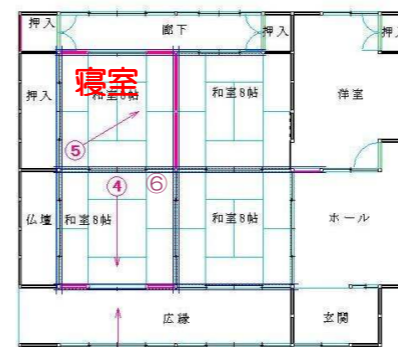
① 庭から広縁を見る



③ 建具を全開すればこれまでと同じ風が吹きぬける



改修前平面図



⑤ 柱を新設し、荒壁パネルを両面張りとする  
⑥ 床下に足固め材を取付。

改修後平面図

耐震診断値【改修前 0.26、改修後 0.44】  
改修にかかった工事費 203 万円  
改修にかかった工事期間 1 ヶ月

荒壁パネル（壁強さ倍率 5.6）



⑤ 右は縦の棧木取付完了、中央は格子状に棧木を取付、下 1 段の荒壁パネル設置。廊下側は 4 段のパネル取付完了  
壁強さ倍率は片面で 2.8、両面張りで 5.6 となる。

足固め材の設置



⑥ 大黒柱の東西方向に 4 寸 x 5 寸の足固め材を両側から挟みこんで設置。柱に金物を使用せずピン構造とした。

【講評】 築 120 年という古い民家を、荒壁パネルという認定工法を上手に使い、耐震性を上げた事例である。建物は伝統的な民家である田の字型の平面であるが、広い平面を全面的に耐震化するのではなく、日常よく使う寝室と居間を中心に要所に荒壁パネルを増設し耐震性を高めている。耐震化に当たっては、日本の伝統的な開放空間の良さを維持すると共に、床下の根がらみや小屋組みの補強も行い、配慮の行き届いた耐震補強となっている。古い民家が壊されていく中で、耐震性を高め長く上手に使うその努力を評価し努力賞とする。